

2024年6月吉日

一般社団法人日本ペインクリニック学会
会員 各位

一般社団法人日本ペインクリニック学会
代表理事 井関 雅子
健康保険検討委員会 委員長 田邊 豊

ヘルニコアセミナー開催のお知らせ

日本ペインクリニック学会第58回学術集会にて、下記のとおり、健康保険検討委員会後援ヘルニコアセミナー（ランチョンセミナー12）を開催いたします。

本セミナーは当会ヘルニコア実施可能医師要件の学会が指定するセミナー（第6回ヘルニコア使用認定セミナー）となります。

どなたでも受講いただけます※が、受講証発行希望の方を対象に当会会員証QRコードでの入退出管理を行います。詳しくは第58回学術集会プログラム号・リーフレット等記載の留意事項をご確認くださいませようお願いいたします。

※第58回学術集会の参加登録は必須となります

記

第58回学術集会 ランチョンセミナー12 ヘルニコアセミナー
日時：2024年7月20日（土）12：15～13：05
場所：第6会場 宇都宮東武ホテルグランデ 4F 松柏II

受講証発行希望の方は、会員証（アプリ・プラスチックカード）をご持参ください。
受講証は、後日、当会ホームページ・アプリ/会員マイページ/ヘルニコア使用認定セミナー受講証発行(<https://jspc.gr.jp/private/hernicore>)のからダウンロードいただけます。



以上



日本ペインクリニック学会第58回学術集会

会期: 2024年7月18日(木)~20日(土)

会場: 栃木県総合文化センター、宇都宮東部ホテルグランデ

会長: 濱口眞輔先生(獨協医科大学医学部 麻酔科学講座)

健康保険検討委員会後援

ヘルニコアセミナー

※裏面の受講確認に関する留意事項もご覧ください。

ランチオンセミナー12

座
長

田邊 豊 先生

順天堂大学医学部附属練馬病院
麻酔科・ペインクリニック 准教授

● 基調講演

腰椎椎間板ヘルニアに コンドリアーゼを活かす —適応、手技、および注意点—

演
者

石川 慎一 先生

東邦大学医療センター大森病院 麻酔科 臨床教授

● 実例紹介

コンドリアーゼ自験 300例から導いた 実践の要領

演
者

高谷 純司 先生

明野中央病院 痛みセンター長



日時

2024.7.20(土)

12:15▶13:05 学会3日目

会場

第6会場

宇都宮東武ホテルグランデ 4F 松柏II
〒320-0033 栃木県宇都宮市本町5-12

日本ペインクリニック学会第58回学術集会

The 58th Annual Meeting of the Japan Society of Pain Clinicians

留意事項

本セミナーは、下記の医師要件③に記載の「学会が指定するセミナー」に該当し、健康保険検討委員会の後援で開催します。講演開始から終了まで受講した方には、学会より「受講証」が発行されます。

「受講証」の発行を希望される方は、入室・退出時に日本ペインクリニック学会会員証QRコードを会場出入口の受付端末にかざしてください。なお、セミナー受講証は会期終了日から約1ヵ月後より学会ホームページ/会員マイページにてダウンロードが可能になります。

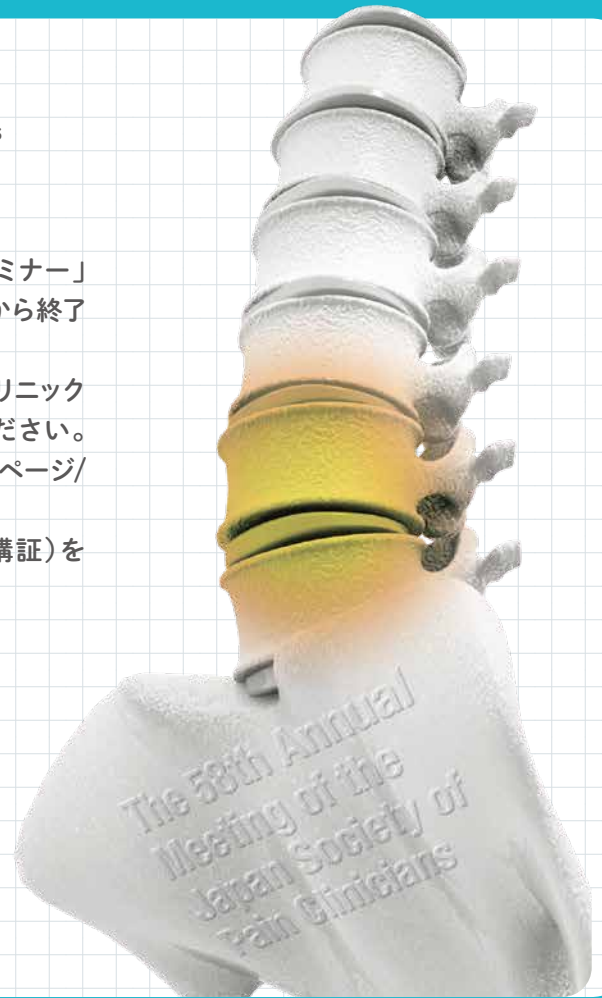
(受講時点で他の要件を満たしていない場合も受講記録(受講証)を残せません)

【日本ペインクリニック学会 医師要件】

- ①日本ペインクリニック学会 ペインクリニック専門医
- ②透視下椎間板穿刺の経験が50例以上ある医師
- ③学会が指定するセミナーを受講した医師

医師要件の他にも施設要件が設定されております。

最新の情報は日本ペインクリニック学会ホームページ/会員マイページ(<https://jpsc.gr.jp/private/hernicore>)よりご確認ください▶



Drug Information

●詳細は電子化された添付文書をご参照ください。電子化された添付文書の改訂にご留意ください。



腰椎椎間板ヘルニア治療剤 処方箋医薬品 (注意-医師等の処方箋により使用すること)

ヘルニコア® 椎間板注用1.25単位

注射用コンドリナーゼ

HERNICORE® 1.25units for Intradiscal inj.

薬価基準収載

日本標準商品分類番号：873999

承認番号	23000AMX00457000
薬価基準収載	2018年5月
販売開始年月	2018年8月

貯法：2~8℃保存
有効期間：3年

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

- 2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2.2 急性の両下肢麻痺や膀胱直腸障害を呈する馬尾障害のある患者[緊急手術が必要とされるため、本剤の投与は適さない。]
- 2.3 骨軟骨異形成症による症状又は脊柱の弯曲がある患者[症状の悪化や腰椎不安定性が強まるおそれがある。]

4. 効能又は効果

保存療法で十分な改善が得られない後縦靭帯下脱出型の腰椎椎間板ヘルニア

5. 効能又は効果に関連する注意

- 5.1 画像上ヘルニアによる神経根の圧迫が明確であり、腰椎椎間板ヘルニアの症状が画像所見から説明可能な患者にのみ投与すること。
- 5.2 本剤は異種タンパクであり、再投与によりアナフィラキシー等の副作用が発現する可能性が高くなるため、本剤の投与前に十分な問診を行い、本剤の投与経験がない患者にのみ投与すること。[11.1.1 参照]
- 5.3 変形性脊椎症、脊椎すべり症、脊柱管狭窄症等の腰椎椎間板ヘルニア以外の腰椎疾患を合併する患者、骨粗鬆症、関節リウマチ等の合併により椎体に症状が認められる患者の場合は、本剤投与により腰椎不安定性が強くなるおそれがある。これらの患者において、合併症が原因で症状が認められる場合は、本剤の有効性が得られない可能性があるため、本剤のリスクを考慮し、症状の原因を精査した上で、本剤による治療を優先すべきか慎重に判断すること。投与を行った場合には、患者の状態を慎重に観察すること。[9.1.2 参照]
- 5.4 20歳未満の患者に対する有効性及び安全性は確立されていない。また、成長期の患者では、成長板が閉鎖していないため、本剤投与による成長板の限局性欠損により、腰椎不安定性を誘発するおそれ、本剤投与による軟骨層の骨化により、軟骨細胞の増殖が抑制され、椎体の伸長が阻害されるおそれがあるため、投与の可否を慎重に判断するとともに、投与を行った場合には、患者の状態を慎重に観察すること。[9.7、15.2.1 参照]

6. 用法及び用量

通常、成人にはコンドリナーゼとして1.25単位を症状の原因である高位の椎間板内に単回投与する。

7. 用法及び用量に関連する注意

複数高位への同時投与の経験はなく、有効性及び安全性は確立されていない。本剤投与によりアナフィラキシー、腰椎不安定性等が発現するおそれがあり、複数高位への同時投与によりリスクが高まるおそれがあることから、複数高位への同時投与は行わないこと。

8. 重要な基本的注意

- 8.1 本剤の投与は、腰椎椎間板ヘルニアの診断及び治療に十分な知識・経験を持つ医師のもとで行うこと。また、椎間板穿刺に熟達した医師が投与すること。
- 8.2 本剤の投与に際しては、ショック、アナフィラキシー等の発現のおそれがあるため、救急処置のとれる準備をしておくこと。投与終了後も十分な観察を行い、症状が発現した場合には直ちに適切な処置を行うこと。[9.1.1、11.1.1 参照]
- 8.3 本剤投与により椎間板が変性し、生体力学的バランスの異常をきたし腰椎不安定性が発現するおそれがある。本剤投与後は、腰椎不安定性に伴う症状の発現の有無を十分に観察するとともに、腰椎が安定化するまでの期間は、過度な運動や腰に過度の負担がかかる動作(重量物を持ち上げる等)を避け、コルセット等の装具療法の併用を検討すること。
- 8.4 本剤投与後にアナフィラキシーや腰椎不安定性が発現する可能性があること、並びにその徴候や症状について患者に十分に説明し、異常が認められた場合には、速やかに担当医師に連絡するよう、患者を指導すること。[11.1.1 参照]
- 8.5 全身麻酔下での投与は、穿刺針の神経根への接触に伴う放散痛等を感知できず神経を損傷する可能性や、アナフィラキシー等が発現した場合に発見が遅れるおそれがあるため推奨されない。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

- 9.1 合併症・既往歴等のある患者
- 9.1.1 アレルギー素因のある患者
過敏症の発現が増すおそれがある。[8.2 参照]
- 9.1.2 腰椎不安定性が疑われる患者
腰椎不安定性が増すおそれがある。[5.3 参照]

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

- 11.1.1 ショック、アナフィラキシー(いずれも頻度不明)
本剤は異種タンパクであり、ショック、アナフィラキシーがあらわれるおそれがある。[5.2、8.2、8.4 参照]

11.2 その他の副作用

その他の副作用を以下に示す。腰痛(25.2%)、Modic分類の椎体輝度変化^{a)}(23.7%)、椎間板高の30%以上の低下^{b)}(16.8%)、下肢痛、痒疹、発熱、頭痛、5°以上の椎間後方開大^{b)}、好中球数減少、トリグリセリド増加(1%以上5%未満)、下肢違和感、発疹、中毒性皮膚疹、そう痒症、感覚障害、C-反応性蛋白増加、ビリルビン増加、健側の一過性のラセーグ陽性(1%未満)、頸部痛、筋骨格痛、薬疹、リンパ節炎、感覚鈍麻、白血球数減少、ALT増加、AST増加、血小板数減少(頻度不明)

a)MR画像異常 b)X線画像異常

21. 承認条件

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

